

## 10月



長良川温泉HPより

## あの日のあの川 リレー日記 ～第21話～

あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

## 第21話主人公 日比野愛

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：岐阜県長良川)

## 「河川敷の40キロ」

いつのこと？：中学生～高校生

どこの川？：長良川

「長良川強歩大会」私の通っていた中高一貫校で毎年実施されていた行事だ。それぞれの学年の体力に合わせ、25キロ、32キロ、40キロのコースに分かれ、河川敷を一日かけて歩く。気温の上がる初夏に行われる、肉体的にも精神的にもかなり鍛えられる一日だ。ちなみに私は、インドア派であるし、運動部にも属していなかった。中学生まで通学もバス。運動するのは週に三回の体育の授業のみ。こんな日頃体を動かしていない私にとって、40キロはとてつもない距離だった。

私の地元、岐阜県には木曽三川が流れる。三つの木曽川水系、木曽川・長良川・揖斐川の総称である。その一つ、長良川の河川敷を、上流のほうにある木曽三川公園から下流に向かって、ゴールの長良川公園まで一日ひたすら歩くのだ。

中学・高校生時代の6年間、毎年私は同じ道を歩いた。最初の頃はこの強歩大会をただの辛いものと思えなかった。河川敷は永遠と同じ景色が続くように感じた。コースは途中で、左岸に行ったり右岸に行ったり、左右を変える。時には橋も渡る。しかし、いくら左右を変えようとも、橋を渡ろうとも、歩いているのは河川敷である。堤防沿いをひたすら歩くだけなのだ。変わらない景色に何度も絶望を覚えながら歩いたのを今でも鮮明に思い出す。

しかし、高校生になり、毎年歩くことにより余裕も生まれたのか、徐々に周りの景色を楽しめるようになっていった。ずっと永遠に変わらないと思っていた景色も、上流から下流に至る変化、河川敷の整備の変化、川で楽しむ人々の様子、周りの自然と生き物など、たくさんの見どころがあることに気付いた。なにより、水の流れや感じる冷たい風は、疲れた私たちの身も心も癒してくれていたのだろう。私が在校生として参加した六年間、台風の影響で土砂降りの中カップで歩いたことも、突然のゲリラ豪雨で雷が鳴ったことも、猛暑の日もあった。自然の天候に左右され、長い距離がさらに長く感じることもたくさんあった。しかし、それを救ってくれたのはやはり自然だった。堤防沿いに植えられた木々からこぼれる木漏れ日の美しさ、河川敷に咲く花、穏やかな水の流れ、冷たい風。こんな自然に囲まれたコースだからこそ、私たちは六年間歩き切ることができたのではないだろうかと思ってしまう。

卒業して4年が経とうとしている今、母校の長良川強歩大会は姿を変え、「強歩大会」となった。長良川沿いを歩くコースから市街地を歩くコースに変更されたのである。あの自然を感じながら風情のある道を歩く時間が無くなったと思うとなんとも寂しい気持ちになる。

(次は守谷賢人さんにバトンを託します)